

第 104 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2005 年 12 月 15 日(木) 18 時 00 分~19 時 30 分

場 所: 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 吉成 伸夫 氏 (愛知学院大学歯学部歯科保存学第三講座 講師)

タイトル: 歯周病と全身疾患の関連性について  
- 動脈硬化症への影響を中心に -

1996 年に提唱された Periodontal medicine の概念以降, 歯周病が口腔内のみならず他臓器疾患にも影響を与える疾患として注目を浴び, 心臓血管疾患, 糖尿病, 骨粗鬆症, 妊娠にまつわる問題, 呼吸器疾患などとの関係に関する疫学的研究が盛んに報告されている。従来の歯性病巣感染と異なっているのは, 関係する疾患の多くが生活習慣病であり, 超高齢社会の到来に向けて, 国をあげての健康増進のターゲット疾患でもある。よって, これらの疾患と歯周病との関係を解明することは, 今後の国民の健康を考えるうえでも大変有意義なことと思われる。

心臓血管疾患の原因となる動脈硬化症は, Rossらが提唱した傷害反応説以来, 血管壁における慢性炎症と考えられている。歯周病の動脈硬化症への影響は, 局所の歯周病関連細菌や細菌成分が血行性に動脈壁に移行し, 影響を与える場合と, 細菌に対する生体防御反応(免疫応答)が関与する場合が想定される。また, これらの因子は体内循環を介して肝臓に集積し, 肝細胞から急性期反応性タンパクが産生される。近年, 血中の急性期反応性タンパクが動脈硬化性疾患の新しい危険因子として注目されてきている。この点に注目し, 歯周病の動脈硬化症への影響経路に, 肝臓を介する経路が関与しているのではないかという仮説をたてた。そこで, マイクロアレイを使用し, 細菌あるいはサイトカインを投与した場合における肝臓での特異的遺伝子発現の網羅的な解析をおこなった。その結果, 急性期タンパク遺伝子の発現上昇, および血液中での濃度上昇が確認された。

今回のセミナーでは, 我々が行ってきた全身と歯周病の関係に関する動物実験結果を紹介し, 日本人でも増加傾向にある動脈硬化症と歯周病の関係についてお話したい。

硬組織疾患制御再建学講座 宇田川 信之